

多様な都市活動を支える快適で潤いのあるまち ～市道德浦松崎線バイパス～

津久見市

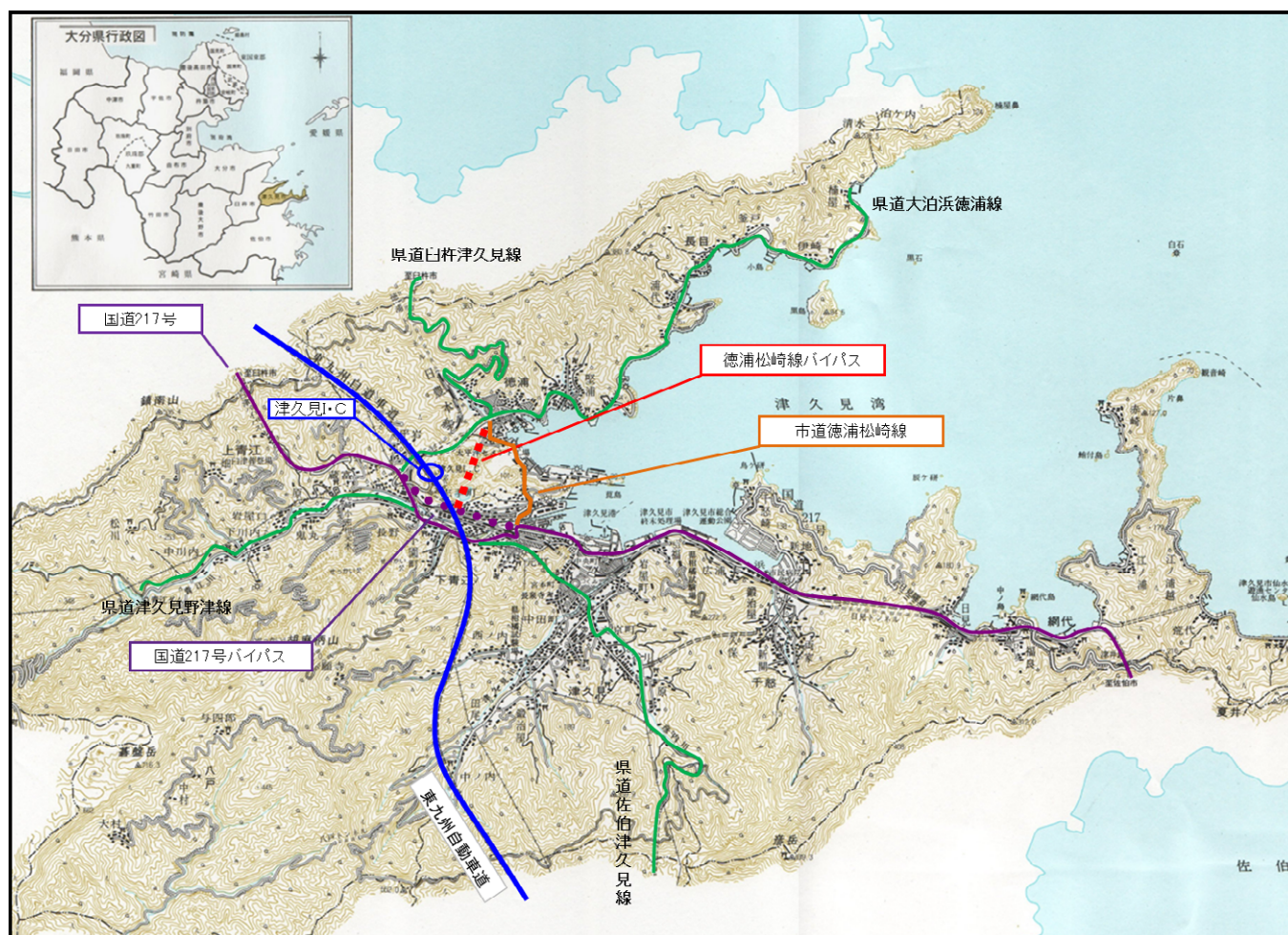
1. はじめに

本市は、大分県の南東部に位置しており、北側は臼杵市、南側は佐伯市に接し、東側は豊後水道に面し、東西に 28km、南北に 12km、総面積は 79.48km² となっています。

豊後水道に面した津久見湾の湾口部を囲うようにリアス式海岸が半島部に伸び、南の四浦半島の延長に保戸島、北の長目半島の延長に地無垢島、沖無垢島の 3 島が浮かんでいます。美しいリアスの海岸線が山地斜面のミカン栽培の段々畑とコントラストをなしており、色とりどりの風光明媚な景観を構成しています。市街地は、青江川、津久見川に挟まれた平野と海岸線の小さな平地に形成されており、背後には、鎮南山・姫岳・碁盤ヶ岳・彦岳といった山々が三方から馬蹄形に市域を囲んでいます。

石灰石採掘場（水晶山）から臼杵市に至るまで幅約 1km、延長約 10km の石灰石の巨大な岩体が横たわっており、この岩は本市を代表する基幹産業（セメント産業）を支える貴重な資源として利用されています。

交通アクセスについては、市内に JR 日豊本線が通っており、津久見駅と日代駅が存在しています。大



分駅まで普通列車で約1時間10分、特急列車で約45分の距離にあります。道路は大分・臼杵方面へは臼津バイパスが通り、車で大分市内までは約1時間15分となっています。また、平成13年には東九州自動車道津久見インターチェンジの供用開始により、所要時間は大分市まで約30分、福岡市まで約2時間30分に短縮され、さらに平成27年の東九州自動車道佐伯以南全線の開通によって、宮崎市までの所要時間が約2時間30分と大幅に短縮されました。

2. 現状と課題

平成27年3月21日に「東九州自動車道」の大分－宮崎間が全線開通し、市内外を結ぶ広域的な道路ネットワークが充実し、観光や産業面で様々な可能性が広がっています。

本バイパス事業は、平成22年度に事業化され当市の重要プロジェクトとして位置づけられており、市道德浦松崎線（水晶山バイパス）と国道217号（平岩松崎バイパス）を一体的に整備する事で産業・防災・医療・観光の大動脈としての役割と効果が発揮できるものです。

市道德浦松崎線（現道）は、市街地と下浦地区（徳浦・堅浦・長目）を結ぶ生活道路であり、本路線は、カーブが多く幅員も狭いため視認性が悪く、本市の基幹産業である石灰石・セメント関係の企業が両側に張り付いており、現道を拡幅することが困難な状況であります。また、大型車両も頻繁に通り歩道が未整備なため、歩行者や自転車に対し、安全な通行空間が確保されていません。

【市道德浦松崎線】



離合禁止のトンネル



狭小な道路



両側に工場が張り付き拡幅が困難



通学路



危険な道路

【国道 217 号】

国道 217 号は、津久見市の都市内交通約 2 万台／日を受ける幹線道路ですが、平岩の交差点より松崎交差点までは、線形の悪い箇所が多く中心市街地まで分かりづらいと言われてます。特に松崎踏切付近は危険箇所が多く見通しが悪いため踏切停車中の車両に追突する事故等が発生しています。



幅員狭小①（歩道無し）



変則交差点（信号無し）



線形不良（クランク）及び変則交差点

3. 整備効果

市道徳浦松崎線バイパスは国道 217 号（平岩松崎バイパス）を経由し、津久見 IC と市街地へ繋がる重要な路線であり、現道は、幅員狭小・線形不良なうえ、歩道が未整備のため、事故が多く発生し通行に支障をきたしています。当該箇所の整備により、セメント・石灰石等の関連企業の大型車両が円滑に通行で

き、市街地と下浦地区を結ぶ安全な生活道路として効果が期待されます。

また、国道 217 号（平岩松崎バイパス）は、重要港湾や広域交流拠点へのアクセス向上を図り、現国道 217 号の通過交通の分散による沿道環境の改善、交通安全の向上、救急医療等の強化を図る事ができます。

本バイパス（市道徳浦松崎線バイパス・平岩松崎バイパス）が全面開通することにより、津久見 IC をはじめ、港湾・JR 津久見駅、市内の各拠点を結ぶ道路となり、さらに、災害時を想定した避難路、緊急輸送路の確保ができます。



市道徳浦松崎線バイパス工事概要

延長 L=1,180m

幅員 W=10.75m

(主要構造物)

・新徳浦トンネル L=177.0m

・函渠工 8,000 × 5,000 L=10.75m 1基

